

# 解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（15・上）

—— 金慶海さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英  
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan  
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (15) — Part I —  
— An Interview with Kim Kyonghe —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung  
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko  
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第15回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集 人文科学編』第102号（2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、神戸市に在住しておられた金慶海さんのお話をまとめたものである。金慶海さんは1938年、神戸市のお生まれで、本籍は済州島朝天面新興里（現・済州特別自治道済州市朝天邑新興里）である。教育問題をはじめとする在日朝鮮人史の研究者として著名で、『在日朝鮮人民族教育の原点——4・24 阪神教育闘争の記録』（田畑書店、1979年）、『在日朝鮮人の民族教育』（共著、神戸学生青年センター出版部、1982年）、『鉾山と朝鮮人強制連行』（共著、明石書店、1987年）、『在日朝鮮人民族教育擁護闘争資料集1 四・二四阪神教育闘争を中心に』（明石書店、1988年）、『在日朝鮮人・生活擁護の闘い——神戸・1950年「11・27」闘争』（共編著、神戸学生青年センター出版部、1991年）などの著書・編書がある。

インタビューは2007年8月25日、神戸市のご自宅で、高正子・伊地知紀子・鄭雅英・高村竜平の4名が聞き手となって実施した。テープから起こした原稿を伊地知が中心となって編集したうえで、2009年1月5日に藤永壯・高・伊地知の3名が再びインタビューを行って内容を確認した。参考地図の作成は福本が、用語解説と最終チェックは藤永が担当した。

平成26年10月30日 原稿受理  
大阪産業大学 人間環境学部文化コミュニケーション学科教授

そしてまことに残念ながら、金慶海さんは2009年12月6日に逝去された。本稿の完成をご存命中にご報告できなかったことをお詫び申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

以下、本稿の凡例的事項を箇条書きにしておく。

- (1) 本文中、文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や、補助的な解説が必要な場合は、[ ]で説明を挿入した。
- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際\*を付し、本文の終わりに解説を載せた。第4～14回報告で解説した用語については、丸数字で報告番号を、アラビア数字で注番号を記し、かっこでくくった(例：(④- \* 13)は第4回報告の\* 13をあらわす)。また、2000～2001年の第1回から第3回の報告でとりあげた用語は「(再掲)」と記して解説した。
- (3) 朝鮮語で語られた言葉は、一般的な単語や地名などは漢字やカタカナ、あるいは日本語の翻訳語で、また特殊な単語についてはハングルで表記し、発音を日本語のルビで示した。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュー側の笑いや驚きなどの反応については、〈 〉で挿入した。
- (5) 話者が語った日本語・朝鮮語は、話者の発音どおりに表記することを基本としたため、いわゆる「標準語」とは異なる場合がある。

なお本稿は言うまでもなく、金慶海さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋、編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが、編集の手が入っている以上、叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを、あらかじめおことわりしておく。

## 日本で生まれて

### 《両親の渡日》

——<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さんの生い立ちを中心にご家族の話も含めて、ちょっとお聞きしたいんですけど、<sup>アボジ オモニ</sup>まずお父さんとお母さんが日本に来られた時期はいつですか？

金：来たのは、1928年。三番目の兄貴がお腹にいる時に来たんだって。

——えっと、ご両親は一緒に来られたんですか？

金：いやいや、親父だけ先に来たらしいよ。後でおふくろがたずねてきたらしい。1年か2年のうちに。ほぼ一緒らしいけど、同じ時期に来たらしいんだけど。



だったらしいわ。親父は馬乗って迎えに行ってるらしいから。

——なんで日本にお父さんは来られたのですか？

金：仕事を求めて来たらしいわ。やっぱりもうあそこじゃ食えない。仕事がまず少ないし。それで日本に行けば生活が楽になる。仕事あるだろうということで来たらしい。

——長男さんですよね？ お父さん。

金：うちの親父は4代にわたって一人息子だったんよ。4代目のうちの親父までね。で、ものすごい、かわいがられすぎて生活したらしいんだけど。で、4代目のうちの親父が初めて子ども10人産むのよ。

——女きょうだいは？

金：女なし。女ひとりもない。男ばかり10人産んだんや、と、言われとるんや。

——長男さんと次男さんは<sup>チュエジュ</sup>済州で生まれたんですね。

金：3人目、三番目から全部日本で生まれた。

——じゃあ長男さんと次男さんは、お父さんが最初に来て、お母さんが後に来る時は？

金：1年も経ってないような感じだけだな。ほほ、だから一緒に来たと言ってるな、兄貴は。

——あ、みんなで一緒にお父さんを追いかけて？

金：うん。

——以前、お父さんが船に乗ってたと聞きましたけど、それは日本に来た後の話なんですか？ それとも？

金：日本に来る前。奥さんやら子どもら、<sup>チュエジュ</sup>済州に置いておいて、船乗り。世界まわっとったらしいよ。

——何の、どんな船？ 運搬船とかですか？

金：それはちょっと聞いてない。船乗りやっていうことだけ。<sup>チュエジュ</sup>済州でな、あの、マゼラン海峡って言うたかな、南アメリカの一番先っちょ。あそこ渡ったのは、親父が最初だと。韓国人として、たぶんうちの親父が最初、違うかな。

——そんなとこまで行かかったんですか？

金：英語がちょっとしゃべれるねん。戦後，GHQ 来た時に，朝連〔在日本朝鮮人連盟〕<sup>(5)\*11)</sup> 兵庫県本部の英語の通訳として働いてた。

——自力で勉強しはったんですよね？

金：まあ，船乗っててな。片言くらいしゃべれたんちゃう？

——お父さんは，おいくつ？ 何年生まれですか？

金：えー，何年生まれや……1898 年。

——へー，そしたら 1928 年やったら，もう 30 歳やね，日本に来られた時は。お父さんの名前はなんて言うんですか？

金：基善<sup>キソン</sup>。おふくろは 1899 年生まれやな。1 歳しか離れてへんな。これ，本当か嘘か分からんで。

——まあ，一応登録でそうなっているんですよね。お名前は？

金：李用賢<sup>イヨンヒョン</sup>。このころの戸籍っていうのは，正確さはもうひとつやね。

——どこの李<sup>イ</sup>ってなってます？ 本貫はどこになってます？ ……何李氏になってます？

金：全州<sup>チョンジユ</sup>となっとんな\*1。

——そしたら，日本に来て，ご両親は最初どこに行かれたんですか？

金：最初大阪にちょっと寄って，で，神戸にすぐ来たって。

——それはどうして？

金：神戸のほうが仕事あったから。靴，ケミカルが始まり出したころや。20 年代〔1920 年代〕ころから西神戸でゴム靴作り始めてるからね。

——あ，20 年代から？

金：20 年代初めから。

——ゴムの靴ですか？

金：うん。20年代初めにコムシン〔ゴム製の朝鮮靴〕を神戸で初めて作るわけよ。朝鮮の人が今履いてる、あのコムシンね。それが朝鮮に輸出して、ものすごい儲けるわけ。

——コムシンって、日本で最初に作ったんですか？

金：最初は。20年か21年に。朝鮮に輸出してものすごい儲かったんや。そのころは、朝鮮はチプシン〔ワラジ〕履いてたからね。チプシンよりいいじゃん、清潔で。

女性向けのそれ〔白いコムシン〕作ったらしいねん。それで、日本のゴム靴屋さんがものすごい儲けていくから、現地で生産したりするんだけども。その靴作る仕事が20年代中ごろ以降、ものすごい儲かるから仕事ある。しかしこれは3Kの職場だからね。きついしな、もうあの。

——においとか、しそうですね。

金：そう。ものすごい独特な硫黄のにおいするからね。肺にもよくないわけ。日本人はあんまり働きたがらない。それで、朝鮮人を、連れてくるわけ。行きよるもん、日給もらえたから。毎日給料もらえたから。これが最大の収入よ。うん、月給〔日給〕なんて毎日毎日くれたからね、要求通り。で、仕事あるっていうことで、神戸に流れてくるわけ。だから朝鮮人が西神戸に今でも多いのは、その理由よ。

——同郷の人がいたとか？

金：同郷もあるだろうし、噂で聞いてきたんと違うか？〔神戸市〕長田にはやっぱり事実、事実、<sup>シル</sup> <sup>じじつ</sup> <sup>チェジュド</sup> 済州島出身の人ずいぶん多いしね。……で、長田に住みついちゃったわけ。

### 《長兄の思い出》

——なるほど。それで<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さんがお生まれになったんですね。でもそれは六番目だから、まだその後四番目と五番目と。

金：全部、だから三番目から下は長田生まれ。

——ということは、三番目は大阪で、四番目からは神戸？

金：そう、みな長田、四番目からは。

——4, 5, 6。え？ <sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さん、末〔末っ子〕です？

金：うん、六番目。大人まで生きたのは、6人なのよ。産んだのは10人だけどね、途中で、幼い時死んじゃってるから。

——<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海先生の後ろは全部亡くなってる？

金：うん。えっとね、……僕は、本当は八番目らしいよ。上のふたりは幼い時2歳か3歳で全部死んじゃってる。僕の下のは、生まれてすぐ死んでるし。大人まで生きたのは6人<sup>1)</sup>。僕とちょうど20歳違うねん、一番上の兄貴。だから僕の親代わり。

——じゃあ、これくらいの歳やったら、お兄さん、一番上のお兄さんなんかは一緒に仕事したんですか、ゴム靴の？

金：いや、そこまで俺聞いてないけど。来たころは、あんまりしてないん違うか。学生、違うんかいな。

——来たころ、10歳ですよ。[19] 28年。

金：兄貴、ものすごい頭よかったから、学校通ってたわ。日帝時代、植民地時代に新聞記者までなっとるねん。

——そうなんですか。この<sup>キョンファン</sup>慶煥さんが？

金：うん、えーっと、ミタミワレ新聞<sup>2)</sup>とかなんとかいうてたかな。それが後で災いするねん。親日派になっちゃって[親日派にされた]、北に帰ってから。

——あー、帰ってから、昔やってたってことで。

金：それで党员にもなれずにさ。北では党员じゃないのは、人間じゃないからな。人間扱いされへんねん。また党员なるために、過去のことまたぐわーっと洗い出して。チクる

---

1) 兄たちの名前と生年は以下の通り。長男<sup>キョンファン</sup>慶煥(1918年)、次男<sup>キョンヌン</sup>慶龍(1922年)、三男<sup>キョンボ</sup>慶宝(1928年)、四男<sup>キョンチョル</sup>慶喆(1931年)、五男<sup>キョンオ</sup>慶五(1934年)。なお族譜では「慶五」と「慶海」の間に「慶台<sup>キョンテ</sup>」(1936年生)という名があるが、金慶海さんの言う夭折した兄のことであろうか。

2) 「ミタミワレ新聞」がどのような新聞かは明らかにできなかったが、「ミタミワレ」とは「御民<sup>みたま</sup>われ<sup>しるし</sup>」、すなわち「一臣民である私」という意味であろう。『万葉集』中の「御民われ生ける<sup>あめつち</sup>駿<sup>あ</sup>あり天地の榮ゆる時に<sup>おも</sup>遇へらく念へば」(海犬養岡麻呂)という短歌に由来する言葉である。この歌は、「国民精神作興」のため日本文学報国会が企画し、1942年11月に情報局が発表した「愛国百人一首」の一つに選ばれている。国民学校教科書『初等科国語七』(6年前期)に収められたほか、山本芳樹が曲をつけた文部省唱歌も6年生で教えられた。

やつも出てくるねん。<sup>キムキョンファン</sup>金慶煥は日帝時代に日本の新聞記者やったとか言うて。親日派やって、反動分子やって言うて。これは出てくるのよ。……ほんまに腹立ったけどね。

この本〔『在日朝鮮人・生活擁護の闘い』〕にもちょっと書いたけど。その後ろに新聞を、<sup>シンチョソン</sup>新朝鮮\*<sup>2</sup>の新聞載せてるわ。140 ページ。「日帝金慶煥、摘発さる。愛国者として CIC [Counter Intelligence Corps = アメリカ陸軍防諜部隊] と内通」。

——1951 年。だけど CIC と内通って言うことは、つまり解放後も記者をされてた？

金：いやいや、植民地時代に日本の新聞記者をして、戦後は総連兵庫県本部の部長をいくつかやるんです。ほんで、この事件あった時以後、兄貴は退職するねん。退職って言うてもやってたんだがな。やってたんだけど、このように摘発されちゃうわけ。で、辞めるわけ。総連？ 民戦 [在日朝鮮統一民主戦線] <sup>(5)\*28)</sup>になるんかな、この時期は。民戦から離れちゃう。

——この内容は、事実無根な？

金：事実無根。

——事実無根なわけだけど、植民地、その戦争の時にやってたってことがあって、そういうやつが、こんなことをやってもおかしくないってこと。これは日本でですか？

金：もちろん、日本で。だから、まずミタミとか、なんとか新聞社に勤めてたから間違いない。植民地時代、新聞記者やったからね。それが親日派の新聞社やないかということ。だから発展させちゃってさ。親日派、売国奴だ、と。でっちあげられちゃったんよ。

——当時はこういうことも結構新聞に載ったわけですね。

金：うん。で、こない [こんなふう] にされたからもう、組織離れちゃうわけ。一番上の兄貴が。でも、普通ならさ、こないされたら、住んでるところ、離れて住むん違うの？ どっか逃げてきて。なのに、彼は長田に住むわけ、半分意地で。身の潔白を示すために。どっか他のところ行ったら逃げたことになるやん。で、長田にずーっと我慢して住むわけ。総連が結成されて何年かしてからかな、復帰する。この疑いが晴れて。[北に] 帰ったんだけど、それがまずかった。これがばれて。出てくるわけ。

——ひっかかっちゃって？

金：うん。あいつスパイだって。売国奴だって。それでまた往生するのよ。もう、かわい

そうや、兄貴がやってるの見たら。

## 解放から教育闘争へ

《日本の小学校で》

——<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さんは38年に生まれて、長田に生まれて。その時は、お父さんはケミカル工場に勤めておられて、学校とかどうしたんですか？

金：僕？ 僕は45年現在で、たぶん日本学校、4月に入ったはずやねんけど。

——あ、小学校入る時に。

金：小学校1年の適齢期〔学齢期〕やからね、45年がちょうど。あんたらが来る、言うからさ、〔入学した〕と、思われる小学校を当たってきたんや、2、3日前に。長田におったから、その近所の小学校ね。探しに行ってきたんや。で、校長に会って、学籍簿かなんか証明になるもんないかって聞いたたら、どない〔どんなふう〕に言うんやと思う？ 20年間しかこのごろ保存しないんだって。僕らが居るころまでは永久保存だったのに、20年以前のはもう破棄するって。あまりにも量が多<sup>おお</sup>なるから。で、二つの学校とも僕の証明されるものはなし。在籍したという証明できない。

——えー。そうですか。学校名は覚えてらっしゃらない？

金：<sup>しんよう</sup>真陽小学校だったと思うんだけどね。これ、長田の真ん中の大橋の近所にあるんだけど。もう一つ近所に<sup>まの</sup>真野という小学校もある。僕が住んでたのはその辺りだから、大橋の近所だから、まあこの二つのどっちか通ったと思うんだけど、証明できない。

——それは何年生まで？

金：45年が僕、小学校1年のはずだから。4月に小学校入ってると思われる。けど分からへん。

——45年、えっと。8月の前だから、途中ですよね。

金：それがおかしいのは、一つはね、45年に神戸は大空襲受けてるねん、2回。大きな空襲だけね。小さいの入れたら何十回なるんだけど。一つめの大きいのは3月17日になるねん。これ、僕、明石に疎開してる時、見てるのよ、その空襲の場面を。というのは、

花火は下から上に上がるけど、焼夷弾は上から落ちてくるからさ。夜中、花火に見えたんや。明石から神戸のほう見たらね、もう、昼みたい。煌々と花火が落ちてるような感じやけど、「神戸空襲を記録する会」のメンバーに聞いたら、夜に空襲されたのは3月17日だけだと。しかもそんな大きいのは、その日しかない。ほな、3月17日に僕は明石におったことになるわけ。すぐ4月に神戸の学校に入ったのかどうか、おかしいなと。

——明石で学校行ってるかもしれませんね。

金：うん、明石行ったのは俺覚えとるねん。でも4月から新学期違うの？ ほんだら、神戸の学校に、日本の学校に入ってないんかなと。分からへん。8月15日も明石で迎えてる。記憶してるねん。と言うのは、豚を捕まえてる場面を記憶してるねん。ものすごくキャンキャン泣くから、なんやろ思ってたたら、大人ら豚を追いまわしとるねん。豚を殺そう思ったら逃げてあかん。

——めでたいから豚を絞めて。ああ、解放やからな。

金：その通り。

——その時はその、一緒に疎開したのは、朝鮮人の人たち？

金：そう。明石に平野っていう村があるねん [明石郡平野村。現・神戸市西区平野町]。今もあるけどね。数十人の朝鮮人が疎開してるわけ。養鶏場を借り切って入ったわけ。

——それは長田から？

金：長田の人がほとんど。その記憶ははっきりしとんねん。明石に疎開したってことは確か。確認とれないけど、日本の小学校に入ったって証明ができへん。分からん。

——えー、じゃあそのころの様子を少しお聞きしたいんですけど。疎開する前は、大橋っていう、長田区の大橋っていうところにずっと住んでおられて、周りは朝鮮の人ばかり？

金：だったと思う。でね、日本の小学校に通った記憶がちょっと残ってるねん。あの、一回立たされた記憶がある。なんでか言うたら、同じクラスにおった日本の子がね、しょっちゅう「チョーセン、チョーセン」言うたわけよ。俺らをおちよくつとるねん。抑揚が「チョーセン」。まっすぐ引っぱらずにさ、「チョウセン」と言わんでね、「チョーセ

ン」で抑揚つけていう。腹立ってくるやん、幼い心でもね。あんまり何回も言われるもんだから、同じクラスにもうひとり朝鮮の子がおって、ふたりでそいつの帰り道を待ちかまえて、袋だたきしたことがあるねん。で、案の定、あくる日、バケツ二つ持たされて、一日中廊下に立たされた記憶がある。これははっきり覚えてるねん。これがいつのことなのか分からへん。おそらくバケツ持たされたことだけは、はっきりしてる。しかも「チョーセン」って言うたから、袋だたきしたからだ。

——それは長田だと？

金：だと思う。それが小学校、どこの小学校か分からへんしさ。

——でも日本の子が言ったってことは、日本の小学校のはずですよ。

金：分からへん、いつのことなのか。どこの小学校なのかも分からへん。

——え、その時は、言葉は日本語だけですか。それとも朝鮮語もですか？

金：日本の小学校行ったから。

——お家とかで。

金：家ではたぶん朝鮮語ほとんどじゃないかな。というのも<sup>チェジュ</sup>済州弁ちょっと分かったから。家族の中ではたぶん朝鮮語しゃべったと思う。

——名前はとうですか？

金：名前は当時日本名でするし。家ではみなもう本名で。

——家では<sup>キョンヘ</sup>慶海ヤー、やけども学校では日本名。

金：日本名でやらな、しょうないから。

——それは解放後ですよ、やっぱりそれは。

金：いや、戦前から家の中で朝鮮語しゃべったん違う？ そんな記憶してる。

——その時の日本の名前は何だったんですか？

金：吉村。

——吉村？ ケイカイ？

金：ケイカイ（慶海）。

——何年生まで日本の学校に？

金：それが分からへん。

《戦後神戸での民族教育のはじまり》

——朝鮮学校の小学校はその時ある？

金：解放後にできるねん。45年，その年や。

——学校できました？

金：できた，できた。西神戸朝鮮学校はできてんねん。それが45年の10月前後ころにできとんねん<sup>3)</sup>。これ，俺覚えとるねん。入った記憶あるねん。一番最初に入ったのはね，……あの突きあたりより，もうちょっと広いかな。この倍くらいの広さの，朝連〔在日本朝鮮人連盟〕<sup>⑤-\*11)</sup>，当時の兵庫県本部の，今の朝鮮学校。

——今の神戸の朝鮮学校？

金：朝鮮学校ね。……ここに，……ここに小学校あってこれが朝鮮学校やけど，で，今の校舎はこない〔このように〕建つとる。当時もそうなのよ。で，こちに当時，45年以後ね，ここに朝連兵庫県本部があったんや。本部事務所が。こっちが玄関で。この後ろに，倉庫があったんや。大きな倉庫が。この倉庫を改造して学校にしてんねん（図2参照）。で，僕の記憶では真ん中あたりに裸電球1個あったんを覚えてるねん。で，こちらの方に，黒板があつてね，生徒らこう座つてた。何十人座つてた。

——倉庫に？

金：うん。で，なんか勉強した記憶があるわけ。だから45年の10月以後だと思う。

——じゃあ，日本の学校に行ったのはちょっとですね？

金：ちょっとと思うのよ。でもわしは全然記憶あれへんからさ。で，ここでちょっと何か

---

3) 西神戸朝鮮初級学校は，1945年9月につくられた国語講習所を前身に，同年11月18日に創立された（教員2名，児童約50名）。

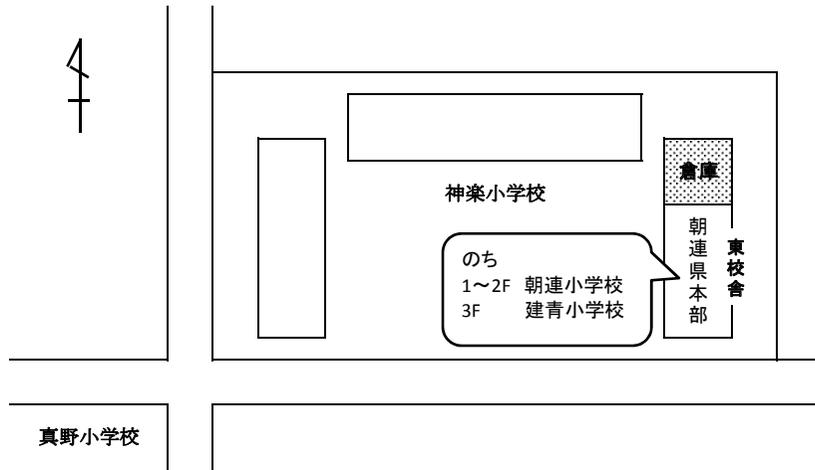


図2 解放直後の西神戸朝鮮初級学校見取図  
(金慶海さんのメモによる作図)

月勉強して、当然この生徒たち増えるもんだから、真野小学校に引っ越ししていくねん。で、ここでまた生徒数が何倍もなっていたから、だめだからということで神楽小学校に今度引っ越しするねん。

——朝鮮学校そのものが、その日本の学校の場所を借りてすると？

金：そうそう。神楽小学校というのはJRの線路の北側に。今は長田南小学校 [1998年に神楽小学校と志里池小学校が統合して開校] と名前変わっているけど、当時の神楽小学校に引っ越しした。これが46年だったかな。46年の6月だと思うわ。

——間借り……日本の子もいたんですか？

金：神楽小学校はね。

——て、言うことは日本の子も、日本の学校として使うし、っていうことですよな。

金：うん。当時神楽小学校という、今は違うけど……こうって東校舎。で、東校舎全部3階建てだけど……、えっと1、2階は朝連の小学校が使って、3階は建青 [朝鮮建国促進青年同盟] <sup>(7)\*11</sup> が借りて使うわけ。建青の小学校になるわけ。

——建青が別に小学校を作る？

金：やってたんや。運営してたんや。

——同じ建物で？

金：そうそう。この神楽小学校のね。

——神楽小学校そのものはどういう状況なんですか？

金：うん、こっちね。西校舎と真ん中の校舎は。疎開していて生徒数がほとんどいなくなつたんだ。この周り朝鮮人いっぱいやからね。ゴム屋ばかりだから。

——朝連と建青は路線が違うわけでしょ？

金：初めのころはあんまり変わらない。青年だから。朝連には当時青年部があったけれども、青年独自の活動はしなかった。建青の場合は、あの一、商売人が多かったんや。若い商売人が中心になってたんや。例えばすでに亡くなった文東建<sup>ぶんとうけん</sup>\*3とかね。うちの兄貴らがかんでるわけ。商売人が中心。

——で、教える内容は違うんですか？

金：あんまり違わなかったと思うよ。

——じゃあ親がどっちに所属してるかで、子どもがこっちとか、あっちとか？

金：うん。右寄りな運動する者がGHQと仲良かったんや。あの、配給がずいぶん当たるわけ。特にミルクが。僕はミルク食べたさに建青小学校入った〈一同：笑い〉。本当なのよ。というのも、二番目の兄貴が建青の副委員長してんねん。一番上の兄貴は朝連の本部の部長やってん。一番上と二番目で喧嘩しだすわ。ものすごい、後で激しい喧嘩しよったわ。

——お父さんは？

金：親父はもうどっちでもええねん。

——へー、どっちに入るかは金慶海<sup>キムキョウヘ</sup>さんが決めたんですか？

金：……さあ、それは記憶ないな。

——入って見たら、こっちだったんですか？

金：いやいや、ミルクたくさんくれたから。子どもどうし、ようあるやん。

——そっか。え、じゃあ、日本の学校に行ってたのに、そこに行くようになったのはなん

ですか？

金：それはもう朝鮮学校。あの、神楽小学校に引っ越ししてくるまでは学校はこれ一つしかなかったからね。

——その時は、別なんですね。建青と一緒にじゃないですね？ 朝連のほうの。なんでここに行くことになったんですか？

金：いや、兄貴らがみな団体入っているから、その影響受けたと思うよ。

#### 《4・24 阪神教育闘争のただなかで》

金：小学校4年まで建青が運営する学校に通った、ここに。小学校4年生の時1948年、4月まで。最後までそこに通った。で、運命の4・24 [阪神教育闘争] <sup>サイサ</sup> (⑥- \* 16) を迎えるわけ、ここで。

——その時がいくつやっけ？

金：えっと、48年4月だから。

——10歳？

金：10歳やな。10歳の時に4・24 <sup>サイサ</sup> をここで迎えた。僕の運命の分かれ道。

——どんな感じだったんですか？

金：それも、48年の3月くらいから4・24 <sup>サイサ</sup> の日くらいまでは、ほぼ学校やってないねん。建青も朝連の学校も。と言うのは、先生ら毎日出かけてるから、授業なんかできへん。しょうがないから上級生らが来て教えてくれた。カ、キヤ、コ、キョ [日本語のイロハに相当]とかね、歌とか教えてくれるわけ。それともまあ運動場に行っ、遊ばしてくれるか。下級生はあんまり出かけないわけ、出てもしょうがないから。上級生らはほとんどいない。もうデモ行ったり、どっか抗議に行ったり。6年生、5年生なんかはほとんど学校に出てこない。あのころ6年生っていうたら大人やもん。今の6年生なんか問題ならへん。僕らいうても48年の3月、4月ごろは、学校には行くけれども、ぶらぶら遊ぶ。せいぜい歌教えてもらう。たまーに、大学生が来て、なんかしてくれよったわな。大学生はすぐ分かるもん。当時は、カンカン帽 [角帽の誤り?] かぶってたから。マントしてからな。かっこいい一格好してから来てやってた。

——同胞の？

金：もちろん。もう、4月24日が近くなると学校行ってもしょうがないし、毎日友だちらで石蹴りしながら学校に行くわけ。登校するわけ。それで運動場でぶらぶら、ぶらぶらしたり。で、24日その日、同じように学校で遊んでいる……、ここは大きな道だと思う。トラックが来てさ、「朝鮮人学校の子ら、誰や、手あげろー」言うて。ほんでみな手あげて、「トラック乗れー」って言うて。で、トラック乗って着いたのが県庁前や。なんのためにトラック来たんか、分からへん。なんで乗ったか分からへん。総動員したんやろね、朝連としては。

その場面をあの4・24の本<sup>よんによん</sup> [『在日朝鮮人民族教育の原点』] で、僕、初めの出だしの部分書いた、その場面。僕、見たことしか書いてへん。で、着いてみたら、同胞らでいっぱいや。あんなにたくさん朝鮮人集まったの、僕初めて見たわ。ほんならもう、歌、歌ってるわ。もう、騒々しくて。で、ガラスの割れるような音も聞こえるわ。なんや、なにかな。とにかく当時習った<sup>へバンエノレ</sup>해방의 노래 [解放の歌] とかね、ああいうのを一所懸命歌ったりして。なんかやったことは記憶あるね。

——で、その時に何があったのかって言うことは、その時はあまり……？

金：最初はその日のことは分からなかった。でも後で(笑)、ああ、あれ4・24<sup>サイサイ</sup>の当日だったな、と。で、「勝った、勝ったー」って言うて、ものすごい、みな叫んでさ。あの、県庁から神楽小学校まで歩いて帰った記憶がある。あんな遠いところをね、何時間かかったか知らんけどさ。

で、神楽小学校帰ってきたら、焚き火して、キャンプファイアーやねん、帰ってきたら。焚き火いうたら、運動場の真ん中で。酒飲むは餅が出てくるわ、料理いっぱい出てきた。大人らは、歌ってる、踊ってる。夜遅くまで。勝った喜びだったんだろうね。その時は何も分からへん。大人たちがどんちゃん騒ぎしてるの、それだけは分かるわけ。おかげさまで食えたしさ(笑)。当時、食べることはものすごい大きな問題やから。食わしてくれたらええのよ(笑)。

で、家に帰って、夜中に騒々しいと。僕らもそう。<sup>トンコルモク</sup>똥골목, 住んどったんよ。トンコルモクっていうたら、西神戸小学校 [朝鮮学校] のね、このきわのところにね、朝鮮人の集団部落が一筋、二筋ほどあるんよ。それをトンコルモク、言うたんよ。糞<sup>トンコルモク</sup>, 똥골목, 下町っていう意味かな。コルモク, トンコルモクって言うたんよ、当時は。自分らのことを見下げてから。トンコルモク, 住んでただけど、ものすごい騒々しい。おかしいな、何があったかな。もうジープは来るわ、もうMP [アメリカ陸軍憲兵]

らが走り回っているわ。それで朝鮮人狩りが始まったんだな、あの時。そんなこと知らんやん。兄貴はどたばた、どたばた、どっか隠れちゃうしさ。なんでか知らんけど、四番目の兄貴らまでも、みなこのことに関わっていたから、関係してたから。四番目までの兄貴らはもうみな逃げちゃうわけ。それでうちら一家の悲劇が始まります。

## 東京での生活

### 《三河島から浅草へ》

—それで東京に？

金：そうそうそう。で、一番目の兄貴は公職にあるもんだから、GHQ も捕まえられない。朝連兵庫県本部の部長様だからさ。GHQ と、ものすごく仲良かった。情報部長やってたんよ。公的な場に居<sup>お</sup>っても捕まえにくかった。二番目の兄貴は建青の副委員長してるから、これまた捕まえられない。三番目、四番目は朝連系で活動してたから、この二人が東京に逃げちゃうわけよ。逮捕を逃れて。で、東京の荒川、三河島にたどり着く。三河島っていうたら済州島<sup>チェジュド</sup>の人ずいぶん多いのね。いっぱいかたまってる。後で見たら分かるけど、もう、<sup>コルモク</sup>글목, <sup>コルモク</sup>글목入ってさ、隅っこに家借りて隠れておったんよ。

—それは組織の知り合い？

金：それは知らん。ともかく、三番目と四番目が三河島へ逃げて行ったわけ。するとおふくろが心配になってさ、あの子ら飯食わしたらな、あかん言うて。神戸は一番目と二番目、親父に任せて、おふくろだけが一番末っ子、これ心配だからってということで、俺を連れて行っちゃったわけ。五番目まではもう大人なってるからね。どないか、こないか、なるだろうと。末っ子だけが心配だっということで連れて行っちゃったんや。

—じゃあ、お父さんと一番目、二番目、五番目が長田に残って、三番目、四番目とお母さんと金慶海さんが東京なんですか？

金：行っちゃった。で、分裂しちゃうわけ、家族が。でもおふくろが、あのころ夜行列車に乗って行ったんだけど、東京駅に着いたら49円しかなかった。これ、どないしようかな（笑）。もう、がっくりきてたね。

—汽車賃がどのくらいかかるんですか？

金：料金知らんけども、その夜行列車で行った記憶だけはある。それで、<sup>チェジュジュエンイ</sup> 濟州쟁이 [濟州人の意]の中に入ってやり出したのは、行商を始めたんや。<sup>コンナムル</sup> 콩나물 [豆もやし]とかね、キムチなんか、あれを安く仕入れて売ってまわるわけ。チビチビチビチビ、金貯めていって商売始めて、子どもら3人食わしてやる。

——東京で？

金：うん。

——すぐ上のお兄さんは行かなかった？

金：五番目……一番目、二番目と五番目が神戸に残るわけ、親父と。というのは、二番目の兄貴はすでにこのころゴム工場を経営してたから、生活は楽なん。

——結婚もしてはった？ 一番目、二番目は結婚もしてはった？

金：そうそう、結婚もしてたしね。一番上の兄貴の場合は、嫁さんが喫茶店をやっていたんよ。大橋<sup>ま</sup>の真<sup>ま</sup>近所で。二番目の兄貴、ゴム工場やってたから生活も安定してるし、羽振りも良かったし。……で、彼ら神戸、生活に基盤あるから残っちゃって。で、家族が東京と神戸に別れた。

——それは<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さんが、48年？

金：48年。小学校4年の時。だから、何をどないなって、こないなつたんか分からん。

——東京に行かれたのは、<sup>サイサ</sup>4・24からどれくらい経ってから？

金：すぐ。えっとね、9月ごろ着いたんかな、向こうに。と言うのは、須磨、僕行った記憶があるのよ。黒板持って行った記憶がある。青空教室や、いわゆる。学校なくなっちゃったから。朝鮮学校行った、朝連系、建青系の子ども関係なしに、朝連、建青いうたってさ、みんな、朝鮮の子なんだから。僕の歳、関係ないね。ともかく寄ってたかって、須磨まで黒板持って行って、もう歌ったりしてたね。それとも、どっかの小さな、もうこのくらいの部屋かな、借りてから朝鮮の子らばかり集まって、もう塾いうたらええ格好で、そのなんか教わったと、そういう記憶はあるねん。

で、あの、長田に高取山という山があるんだけどね、あまりタカはないんだけど<sup>4)</sup>、

4) 高取山は六甲山地の西部、神戸市長田区と須磨区の区界に位置する山である（標高328メートル、図1参照）。同じ長田区のJR沿線には「鷹取」という地域があり、ここでの金慶海さんのお話

あそこにセミ取りに行ったり。そういう記憶はずいぶん残っている。しばらくは4・24<sup>サイサ</sup>の直後は神戸におったんや。それでたぶん9月ころかと思うんだけどね、東京に行って。第一小学校〔東京第一朝連初等学院。現・東京朝鮮第一初中級学校〕に入った。荒川区。朝連の、第一小学校に。俗称、荒川小学校いうんだけどね。荒川にあったから。

—そうですね。へー。じゃ、そこ、三河島にずっと、じゃあもう朝大〔朝鮮大学校〕<sup>(6)\*31)</sup>出られるまでですか？

金：いや、違う。三河島で、おふくろ、行商しながら金貯めて、浅草に引っ越しするねん。浅草には公園六区〔映画館、演芸場などが並ぶ浅草の歓楽街〕って知ってる？ 浅草寺の近所だね。雷門の近所だね、公園六区っていう、浅草、映画館がずらーっと並んどるで。今はほとんどないん、違う？

—今はもうあれでしょうね。かつて昭和30年代くらい、一番。

金：ものすごい。で、そのど真ん中に公園六区っていう地名のそこあってね。これ、三角形の形〔に〕なってて、これが六区なのよ。ここに朝鮮人が密集して住んだんよ。ほとんど朝鮮人。雷門から歩いて5、6分もかからんところ。この出たところに映画館がずらーっと並んだんよ。ここで、おふくろが食堂始めたんよ。「平和食堂」言うてね、この真ん中で。

—朝鮮の食べ物？

金：うん。平和食堂始めて、それが当たったんや、儲かって。あのね、見たら、あの、今で言うたらセンマイか？ 臓器？ ウンコのいっばいついたやつ。あんなやつ拾ってきってからね、俺に洗わせたりさ。あのテッチャン、なんかも、あの、汚いんやわー、あれ。かーっとしぼってね、ウンコ吐き出さしてからさ、指、突っこんで、またチエーッて洗って、ものすごい手間かかるねんや、あれ。

—どういうところに拾いに行ったんですか？

金：それは覚えてない。屠場に行ってもらってきたのは間違いない。

—洗っているのは覚えている？

金：うん、もう洗われたから。あれもう手間ものすごい、かかるねん、あれは。きれい  
は両者の漢字を混同したものと思われる。

に洗わないとあれ、えらいことになるからね。ウンコついてるから。それで、そういうので、豚の足とか、そんなん全部記憶ある。あれ、洗<sup>あろ</sup>て、それで剃刀でひげを剃った。

——焼かないんですか？

金：焼いてから、毛を剃刀で取りきれないのよ。火で炙<sup>あ</sup>ったりして、逆にまた先に火で炙<sup>あ</sup>って、毛取って剃刀して。そんな作業ずいぶんしたよ。

——いくつぐらいの時？

金：……高校出るくらいまでやったん違うかな？

### 《神様のような母》

——小さい時から東京行って、お母さんが食堂始めて。食堂始めはったんは、いつぐらいなんですか？

金：朝鮮戦争ごろ。1950年ごろ。で、これで当たってね。三番目、四番目の兄貴、結婚もさせるし、その三番目、四番目が民青〔在日本朝鮮民主青年同盟〕<sup>(6)\*29)</sup>の幹部もするしさ。後で総連の幹部になるからね。その友だちらもいっぱいおるやん。あんまり当時は給料当たらへん〔もらえない〕。だから、家、来てからね、おふくろに飯食わしてもろて、<sup>クッペギ</sup>鬻<sup>ウツ</sup>酒<sup>サケ</sup> [濟州島方言で濁り酒のこと] 飲ましてもろて、小遣いもろて。そんな人いっぱい見た。今はほとんど死んじゃったけれど、70代以上の人で今の総連の幹部やっている人で、おふくろの名前知らん人いないと思う。ものすごい恩恵受けてるよ。儲けたら、もう、その人ら来たら必ず小遣いやって、俺見てるもん。そらもう、おふくろは大げさな言い方やけど、神様みたいな存在やった。ほんまにおふくろ、みんなのおふくろ。

——その間は、そのお父さんと上のお二人とすぐ上のお兄さんはずっと神戸なんですか？

金：神戸。途中で、五番目の兄貴が東京に来るねん。朝鮮戦争終わった後と違うか。だから3, 4, 5, 6〔番目〕まではみな東京行っとる。一番上と二番目はここに生活の基盤があるから動けない。お父さんも神戸におって後で東京に来るねん。

——来はるんですか？

金：やはりおふくろ好きだからね 〈一同：笑い〉。もう親父はおふくろにべったりなのよ。

もう、ほんまにもう、おふくろ様々や。おふくろは美人だし、スタイルも、ものすごい、よいのよ。もう、そらもう、年いった時の写真、見てたら惚れるよ。

—お父さんはその時も工場してはったんですか？

金：戦後だったら、ほとんど働いてない。長男と次男が全部生活みてやってたから。

—食べさせてあげてはったんですか？

金：たまに通訳として、GHQ からがっぼり結構、もらってくるからね。缶詰やらそんな、ものすごいもらってくるねん。

—じゃあ、解放までですか、ゴム工場は？

金：そう、働いたのは。解放後はほとんど働いてない、と僕は記憶するよ。

—ああ、でもその時、結構お歳ですよ。

金：もうもう、そうや。うん。でもやっぱり済州<sup>チェジュ</sup>の女性は強いもんね。もうそら、子ども<sup>チェジュ</sup>らのために一所懸命働いたわけや。済州<sup>チェジュ</sup>の女性は大変。

—なるほど。そこの、浅草のところに、済州<sup>チェジュ</sup>の人が多かったというのはないんですか？

金：もちろん多かったよ。ほとんど済州<sup>チェジュ</sup>人。で、おふくろ頼ってから、集まって来よったからね。

—お母さん、組織活動みたいなはったんですか？

金：もちろん、してる。女性同盟\*4。

—それはいつくらい？ お母さん、いつくらいから、されてたんですか？

金：……東京行ってからじゃないかな？ だと思ふよ。でも子どもらがみな左翼運動やつとるから、親父もおふくろも影響されちゃって。悪いことはしない、よいことをしてるんやという自負心が相当あったんと違う？ 息子ら、よい子らだぞ、と。無条件に信用したと思ふよ。

—食堂の名前の平和食堂ってのも、そういう意味でつけたんですかね？ その、戦争があるから。

金：そうよ、朝鮮戦争が始まる時だからね、平和を願って。でかでかと看板書いて、[名前を]つけてから。

——<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さん、お手伝いも、さっきみたいなお肉の下ごしらえとか、中のこともされてたんですか？

金：もちろん、やらなければ。人手足りんから。

——誰かを雇ってました？

金：後でね、余裕ができた時に。日本の女性がひとり、ふたり、九州の子。沖縄の子だったかな？

——上京してきて働いて？

金：うん。

#### 《中高生時代と組織活動》

——<sup>キムキョンヘ</sup>金慶海さんは、そんなら荒川小学校から次、中学校は？

金：中学校は東京中学。朝高。中高が一緒になっててね、北区にあったんや。上十条。今はある。

——今もありますね。もうその時は、なんか結構お兄さんたちの活動とかも、自分もそうなるみたいに思ってたんですか？

金：自然と感化されていったん、違うか？ 兄貴やってるの、ええ格好やしさ、悪いことやってるようには見えないし、ええことやってると違うか、と（笑）。うん、僕は、小学校、中学校のころ、火炎瓶投げる練習もしたもん。そうよ、うん。あの、祖国防衛隊\*5っていうのは、あの、祖防隊、<sup>シンチョソン</sup>新朝鮮発行していたのは祖防隊や、祖国防衛隊やねんね。そっから発行したんだけど。そこの隊員でもあったしね、すでに。相当感化されとったよ。

——自分で作るんですか、火炎瓶？

金：うん。夏休みなんか利用してから、そこの偉い人らが、少年隊の者らを集めて、キャンプに行くわけや。山奥の高尾山とか、行くわけ。名目上少年キャンプだから通じるやん。

そのうち、また何人かだけ選抜しよったわ。そこに僕は入っていて、また別に、ずーっと、まあ奥まで歩いて行ってから、ビール瓶に……油入れて、口のところに塩、巻き付けて。で、ほったら、発火しよんねん（笑）。びっくりしたよ。火炎瓶って、こない[このように]作るんかって思って。あの時初めて分かった。簡単な物なのよ、うん。で、ある日なんか、立川基地[当時は米軍基地。1977年に返還され一部は陸上自衛隊立川駐屯地として使用]の歩測をしたんや。

——歩測？ 歩いて？

金：その前に歩く訓練するんや。一足、何センチか、何日間もやらされたんや。一定の距離で歩けと。で、分かったのは、僕は70センチかかっとったわ、一足出すのに。で、70センチくらいだから、それで基地の周り、こつこつ、こつこつ歩かされとった。大人が歩いたら、ばれちゃうからね。子どもら散歩するんやったら、かまへん[構わない]やん。できるやん。立川基地のどこを歩いたのか知らんけども、歩いた記憶あるよ。徹底的に僕はエリートコースを歩いていたんよ（笑）。左側のな。極左の方の。

——それは、あの、何歳くらいから、どういう手続きって変ですけど、組織に入るっていう、何かこう、あるわけでしょ？

金：だったと思うね、うん。でもたぶん、三番目と四番目の兄貴らがそういう極左活動してたから、あの辺りからこう、僕に話来たんと違うかな。幹部の弟だから、ということと、僕は思うけどね。今勝手な推測だけど、僕が自ら望んでそんなところ、できへんやん。

——それは、キャンプなんてのは、中学生くらいですか？

金：小学、中学。

——小学校で？ 小学校で？ ふーん、それはすごいですね。小学生にやらせてたというのは初めてですね[初めて聞きますね]。

金：今さらだったら、もうびっくりするよ。4年[生]の時、48年でしょ。2年のうちに朝鮮戦争だから、6年くらいかな。在日朝鮮人運動が極度に転換してるやん、朝鮮戦争迎えてね。祖国防衛闘争だつて言うて、三反闘争\*6とかやらされるやん。ビラまきやらね、抗議デモやらね。そらもう派手なのは、なんでもやった。

——学校の外の活動とかも、行って？

金：うん。そういうのが楽しかった。

——ああ、みんなでわーっと行って（笑）

金：学校は遊ぶ場所（笑）。

——へー。授業とかでは<sup>クゴ</sup>国語とか、その歴史とかは一応習って？

金：もちろん。学校ではね。

——それ以外にそういう活動を？

金：うん。

（以下、次号）

\*本研究は科学研究費補助金（課題番号 24520782）の助成を受けたものである。

## 【用語解説】

### \*1 <sup>チョンジュイシ</sup>全州李氏

朝鮮における最有力氏族の一つ。新羅時代に司功（王京城郭の修理を担当する官職）をつとめた李翰という人物を始祖とする。朝鮮王朝の王族もこれに属し、建国者・李成桂はその22世にあたる。2000年の韓国の人口調査では808,511戸、2,609,890名が属し、本貫別人口では第3位（5.7%）を占める。分派は122派に上り、ほとんどが王子大君（王の嫡出子）か王子君（王の庶子）を派祖としている。済州では16～17世紀に、政争に敗れて流配されたり、中央政界に失望し転居してきた者たちが定着して「入島祖」となった。金慶海さんの母の出身地と見られる朝天邑新村里は、全州李氏が多いと言われており、済州4・3事件の武装隊総司令官であった李徳九も新村出身の全州李氏であった。

### \*2 『<sup>セチョソン</sup>새조선（新朝鮮）』

祖国防衛隊（後掲\*5）の上部機関である祖国防衛全国委員会の機関紙。

**\*3 文東建（1917～1988）**

実業家・活動家。慶尚南道生まれ。13歳で単身日本に渡り、北神商業学校（現・神戸市立兵庫商業高等学校）卒業、日本大学専門部商科在学中に治安維持法違反で3年6カ月服役する。解放後に関西学院大学経済学部に入編、卒業するかたわら、朝鮮建国促進青年同盟（建青）で活動し兵庫県本部初代委員長をつとめた。しかし1946年10月の在日本朝鮮居留民団（現・在日本大韓民国民団）の結成には加わらず、1948年に結成された朝鮮統一民主同志会の副委員長に就任する。のちに在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）に参加するものの、路線転換の評価には疑問を持つ活動家が集まった朝鮮研究所の設立準備委員であった。商工人としては1946年の三栄ゴム工業所設立を皮切りにさまざまな事業を営む一方、47年に兵庫県朝鮮人商工会副会頭、のちに在日本朝鮮商工会連合本部副会長をつとめた。その後、朝鮮画報社社長、兵庫県朝鮮商工会会長などを歴任。1983年のラングーン事件で兵士輸送に使用された貨物船について、日本の一部マスコミは彼が朝鮮民主主義人民共和国に寄贈したものと報道したが、本人は全面否定している。また金日成主席とのツーショット写真が同国の日本語宣伝雑誌に掲載され、大きな話題になったこともある。1986年、全演植（在日本朝鮮人商工連合会会長）とともに、商工人としては初の朝鮮総連副議長となった。

**\*4 在日本朝鮮民主女性同盟（女性同盟，女同，女盟）**

1947年10月、朝連（在日本朝鮮人連盟）婦人部を母体に結成された在日朝鮮人女性の大衆運動団体。1955年の朝鮮総連（在日本朝鮮人総連合会）結成後は、その傘下団体となる。在日朝鮮人女性に対する交流の場の提供、子育て、冠婚葬祭など、おもに地域での活動に取り組む。とくに母親層が中心であることから、民族教育を守り支える運動に一貫して尽力してきた。東京に中央本部が、各都道府県に本部があり、約200の支部が設置されている。

**\*5 祖国防衛隊（祖防隊）**

日本共産党民族対策部（民対）がつくった軍事活動機関。1950年6月25日、朝鮮戦争が勃発すると、民対は祖国防衛・組織防衛を理由に非公然組織として、中央には祖国防衛委員会中央委員会（全国委員会ともいう）、各地方には祖国防衛委員会（祖防委）を組織し、祖防委の指導下に実行部隊として祖国防衛隊を設置した。祖防委・祖防隊は、朝鮮戦争向けの武器弾薬の製造・輸送阻止、在日朝鮮人強制送還反対の実力闘争を繰り広げ、1952年には吹田事件（6月）、大須事件（7月）などの闘争を展開した。しかし日本共産党は1955年初め、在日朝鮮人を「日本革命」に動員してきた従来の運動方針を転換し、同年7

月には民対が廃止され、祖防委・祖防隊も解散した。

### **\*6 三反闘争**

1953年夏から日本共産党が打ち出した闘争方針。「三反」とは「反米・反吉田（当時の吉田茂首相）・反再軍備」のこと。当時、日本共産党の影響下にあった民戦（在日朝鮮統一民主戦線）は、これに「反李承晩（韓国大統領）」を加えた「四反闘争」を方針にしようとしたが、日本共産党はこれを「民族的偏向」と批判し「三反闘争」に戻させた。このことは在日朝鮮人活動家たちに、日本共産党の方針に従うことへの疑問を抱かせ、日本革命より朝鮮革命を優先すべきとする「民族派」台頭の一要因となった。